

就活 会社説明会解禁

2020年春に卒業予定の大学3年生らに向けた会社説明会が1日解禁となり、県内でも就職活動が本格的にスタートした。人手不足を背景に企業の採用意欲は高いものの、学生優位の「売り手市場」であることから、各社はインターンシップ(就業体験)などさまざまな工夫を凝らし人材獲得に知恵を絞っている。

県内企業

就職情報会社「マイナビ」の調査では、地元以外に進学した今春卒業予定の大学生でUターン就職を望む人の割合は、7年前より15%以上低い33・8%。大都市圏の企業に挑む学生が多い上、大企業が地方大学に求人を出すため、

地方企業にとって採用は厳しさを増している。1日に富山市総合体育館などで開かれた合同企業説明会「とやま就活キックオフフェア」。宮本工業所(富山市)は、自社ブースの前に「VR(仮想現実)工場見学」と記した看板を設置。工場の様子や若手社員のメッセージ映像を見ることが出来るサイトを紹介して自社の魅力をPRした。

「就業体験 各社ともインターンシップ」

に力を注ぐ。三協立山は今年から建材、マテリアル、商業施設の事業ごとに実施。担当者「配属後に『希望職種でなかった』と思われるためにも、入社前から各事業の内容をきめ細かく伝え、興味を持ってほしい」と話した。大高建設(黒部市)と日本海建設(富山市)、安達建設(南砺市)の建設業3社は、2月から合同でのインターンシップを開始。業界に興味を持つ学生に多くの企業を知ってもらうとともに、自宅に近い勤務地を選んでもらえるよう、3社間で協力するとい

■トップ自ら

ほとんどの企業が総務や人事担当者が学生に説明する中で、社長自らアピールする企業もあった。エムダイヤ(滑川市)の森弘吉社長は「ともに働く人を選ぶのだから、ダイレクトに熱意を伝えたい」と強調。キュアコード(富山市)の土田史高社長は「大概のある人を自分の目で見極めたい」と語った。

■早く内定ほしい」

フェア参加の学生

取得しやすいことをPRした。ネットヨタ富山(富山市)も各種休暇制度やノー残業デーなどを紹介した。北陸銀行は今回のフェアのほか、今月は女性限定の説明会を富山、東京、大阪で開く。人事企画グループの矢部仁美主任は「銀行は男性中心の職場と思われがちだが、女性が活躍できる環境を整っていることを伝えたい」と話した。

「売り手市場」で知恵



合同企業説明会に参加する学生(富山市総合体育館)

県内企業は新卒採用だけでなく、中途採用も重視。中には計画的に人員を募る動きがある。各社とも即戦力を期待している。北陸電力はこれまでも10、20人の中途採用してきたが、今回初めて2019年度に30人を採用するなどの計画を定めた。大量の定年退職や分社化などを見据え人員確保を図る。年平均で90人の中途採用しているYKKは、強化していく特定分野については計画的に採用し、そのほかは適宜募っている。大阪屋ショップは事業拡大に伴い業界未経験の30、40代を含め年約40人を採用。少子化の影響で新卒採用市場は縮

中途採用も重視 即戦力期待

小しており、担当者は「店舗数はこの10年で2倍となり、新卒者だけでは必要な人数を確保できない」と話す。日医工は、医薬品製造や品質管理、製剤開発などに関する専門知識、経験が求められる職場で通年で中途者を採用している。県経営者協会の企業調査によると、県内の中途採用実績は11年は約1700人だったが、17年度は約3900人に増えている。リクルートワークス研究所(東京)の全国調査によると、19年度も中途採用が増加する見通し。飲食・宿泊業や情報通信業、小売業、運輸業などの業種で増やす傾向があるという。

「とやま就活キックオフフェア」に参加した龍谷大3年の女子学生(21)は、昨夏から県内企業でインターンシップに参加しており「日程ルールはあまり関係ないのかなと思う。早期化を感じていて、できるだけ早く内定を取りたい」と話した。フェアを企画した県の担当者「実際の就職活動は中盤戦に入っているとも聞く。学生には『売り手市場』だからこそ、選択の幅を広くしてさまざまな企業を見てほしい」と呼び掛けている。